

2025年7月12日
楽待株式会社

第40回 楽待杯 全国オール学生 将棋選手権戦（団体戦）を2025年8月31日に開催！

本リリースのポイント

- ・日本将棋連盟が主催する「楽待杯 全国オール学生将棋選手権戦（団体戦）」が2025年8月に開催
- ・楽待は2017年から本大会の協賛をはじめ、今回で17回目となる
- ・「楽待賞」として、優勝チームには彫埋駒、3位以上のチームには対局時計を贈呈する



第39回大会の様子

楽待株式会社（本社：東京都中央区、東証スタンダード、証券コード：6037）が協賛する「第40回 楽待杯 全国オール学生将棋選手権戦（団体戦）」が、2025年8月に東京・品川区で開催されます。本大会は、将棋の普及と青少年の育成を目的として公益社団法人日本将棋連盟が主催しており、小学生から大学生等の現役学生が参加します。優勝チームには楽待賞として彫埋駒と、3位以上には対局時計を贈呈します。昨年は慶應義塾大学が20年ぶりに団体戦優勝を果たしました。2025年も熱い大会になるよう、皆様のご参加をお待ちしています。

第40回 楽待杯 全国オール学生将棋選手権戦（団体戦）概要

- ・ 日程：2025年8月31日（日）9時30分受付 10時開始予定
- ・ 会場：大崎ブライトコアホール（東京都品川区北品川5丁目5-15 大崎ブライトコア3F）
- ・ 参加費：1チーム8000円（税込）
- ・ 定員：64チーム（応募が64チームを超えた場合、参加チームの調整をさせていただきます）
- ・ 資格：小・中・高・大学等の現役学生で、同一校5名1チームで編成
- ・ 競技：総平手、30分切れ負け。5対局リーグで勝点・勝数で順位を決定
- ・ 賞：5位以上に賞品、優勝チームに五段免状
- ・ 楽待賞：優勝チームに彫埋駒、3位以上に対局時計
- ・ 募集期間：2025年7月12日（土）～8月10日（日）

<https://store.shogi.or.jp/view/item/000000003127>

協賛を続ける理由

当社では「論理的思考」を重視しており、それが創業時の社名「ファーストロジック（最初に論理的思考を）」の由来になっています。日本の伝統文化である将棋を通して、論理的に考えることの大切さを若い世代に知ってほしいという思いで、2017年度から大会に協賛しています。

大会を通じて素晴らしい選手と多く出会ったことから、採用選考においては「将棋選考」を定期的に開催しています。試験官であるプロ棋士との対局で勝利すると選考の一部が免除されるというもので、これまで3度開催し、2名の採用に至っています。次回将棋選考は2025年9月に開催予定です。



前回の将棋選考の様子。試験官は谷合廣紀五段が務めました（2025年2月開催）

不動産投資の「楽待」概要

2006年3月に開設した「楽待」は、月間168万人が訪れる、使いやすさ・利用者数・掲載物件数No.1(*1)の不動産投資プラットフォームです。全国5100社の不動産会社が毎日物件情報を登録しており、ユーザーは自身の希望条件で絞り込んで、目当ての物件を探すことができます。

また、不動産投資専門メディア「楽待新聞」を通じ、業界のニュースや不動産投資の成功談・失敗談などを発信。YouTube「楽待 RAKUMACHI」はチャンネル登録者数120万人、総再生回数は5億8000万回にのぼります。（2025年7月時点）

不動産業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）を促進するため、2020年6月には、不動産会社とオンライン通話ができる「ビデオ通話」機能もリリースしました。更に2022年6月には有料会員サービス「楽待プレミアム」を開始。登録することで、業界初(*2)の独自機能「賃貸経営マップ」やプレミアム会員限定動画が見放題になります。

「公正な不動産投資市場を創造する」というビジョンのもと、不動産投資家・加盟不動産会社の双方にとって使いやすい機能やサービスの提供に努めてまいります。

【会社概要】

楽待

社名：楽待株式会社

URL：<https://rakumachi.co.jp/>

上場市場：東証スタンダード（証券コード：6037）

本社：東京都中央区八丁堀三丁目3番5号 住友不動産八丁堀ビル5階

設立：2005年8月23日

事業内容：国内最大の不動産投資プラットフォーム「楽待」の運営

【本件の問い合わせ】

楽待株式会社 広報担当 尾藤

携帯電話：080-4129-5743

固定電話：03-6833-9438

E-mail：rakumachi@rakumachi.co.jp

*1 『物件数 No.1』：日本マーケティングリサーチ機構調べ（2022年12月）

『使いやすさ No.1』：ゴメス・コンサルティング調べ（2022年12月）

『利用者数 No.1』：自社調べ（2022年12月）

*2 自社調べ（2023年4月）

